

社会福祉法人同愛会定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設の経営

(ロ) 特別養護老人ホームの経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービス事業の経営

(ロ) 老人介護支援センターの経営

(ハ) 老人居宅介護等事業の経営

(ニ) 放課後児童健全育成事業の経営

(ホ) 保育所の経営

(ヘ) 小規模多機能型居宅介護事業の経営

(ト) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

(チ) 障害福祉サービス事業の経営

(リ) 障害児通所支援事業の経営

(ヌ) 相談支援事業の経営

(ル) 移動支援事業の経営

(ヲ) 地域活動支援センターの経営

(ワ) 老人短期入所事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人同愛会という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、子育て世帯、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字宮ノ平 1057-1 番地に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名が出席し、かつ、その1名が賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が100,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

(1) 理事及び監事の選任又は解任

(2) 理事又は監事の報酬等の額

(3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準

- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) 事業計画及び収支予算
- (10) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）
- (11) 公益事業・収益事業に関する重要な事項
- (12) 解散
- (13) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
（開催）

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（決議）

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、その決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに署名する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第16条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長、1名を常務理事とする。

3 前項の常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員資格)

第18条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)及び評議員(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において、別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び常務理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第21条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任

することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第23条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第24条 この法人に職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（「以下施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては、理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3

種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字宮ノ平 1057 番地 1 所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建ライキ園園舎 1 棟 (987.20 平方メートル)
鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建野美園園舎 1 棟 (442.98 平方メートル)
- (2) 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字宮ノ平 1057 番 1 所在のライキ園敷地 (9,462.14 平方メートル)
- (3) 栃木県那須郡那珂川町芳井字大清水 840 番地 4 所在の鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板葺平家建リヴェット園舎 1 棟 (455.72 平方メートル)
- (4) 栃木県那須郡那珂川町芳井字大清水 840 番 4 所在のリヴェット敷地 (2,500.15 平方メートル)
- (5) 栃木県大田原市小滝字上ノ山 17 番 22、17 番 23 所在の藍敷地 (4,895.00 平方メートル)
- (6) 栃木県芳賀郡益子町大字北中字入 1107 番 1、1108 番 1、1109 番 1、1113 番 1、1114 番、1115 番、1116 番、1105 番 1、1106 番 1 所在の光輝舎敷地 (6,879.00 平方メートル)
- (7) 栃木県大田原市小滝字上ノ山 17 番地 22 所在の鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建藍園舎 1 棟 (463.60 平方メートル)
- (8) 栃木県芳賀郡益子町大字北中字入 1113 番地 1、1114 番地所在の鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建光輝舎及びこうき園舎 1 棟 (2,548.86 平方メートル)
- (9) 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字向山 1174 番 60、1174 番 61 所在のピアレス 2 敷地 (493.01 平方メートル)
- (10) 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字向山 1174 番地 60 所在の木造スレート葺 2 階建ピアレス 2 園舎 1 棟 (125.87 平方メートル)
- (11) 栃木県大田原市堀之内字飛矢ヶ沢 494 番 3 所在のピアレスⅢ及びピアレスⅣ敷地 (500.58 平方メートル)
- (12) 栃木県大田原市堀之内字飛矢ヶ沢 494 番地 3 所在の木造瓦葺 2 階建ピアレスⅣ園舎 (129.18 平方メートル)
- (13) 栃木県大田原市堀之内字飛矢ヶ沢 494 番地 3 所在の鉄骨・木造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建ピアレスⅢ園舎 (193.20 平方メートル)
- (14) 栃木県那須塩原市一区町 281 番 71 所在の四季の花敷地 (988.00 平方メートル)
- (15) 栃木県那須塩原市二区町 352 番 180 所在の四季の空敷地 (992.00 平方メートル)
- (16) 栃木県那須塩原市一区町 281 番地 71 所在の木造アルミニウム板ぶき平家建四季の花園舎 (270.78 平方メートル)
- (17) 栃木県那須塩原市二区町 352 番地 180 所在の木造アルミニウム板ぶき平家建四季の空園舎 (309.70 平方メートル)
- (18) 栃木県大田原市城山 1 丁目 140 番 8、140 番 10、140 番 22、140 番 26、140 番 27 所在の四季の風敷地 (2,827.00 平方メートル)
- (19) 栃木県大田原市城山 1 丁目 140 番地 26、140 番地 10 所在の木造アルミニウム板ぶ

- き平家建四季の風園舎 (219.03平方メートル)
- (20) 栃木県那須塩原市一区町 281 番地 71 所在の木造アルミニウム板ぶき平家建四季の
花園舎 (125.92平方メートル)
- (21) 栃木県塩谷郡塩谷町大字船生字申内 1706 番所在のピアレス敷地
(383.47平方メートル)
- (22) 栃木県塩谷郡塩谷町大字船生字申内 1706 番地所在の木造亜鉛メッキ鋼板葺平家建ピ
アレス園舎 (158.16平方メートル)
- (23) 栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木字宮ノ平 1057 番地 1 所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶ
き平家建野美作業棟 (80.50平方メートル)
- (24) 栃木県大田原市市野沢字練ノ裏 1842 番 1、1843 番 1、1844 番、1845 番、1846 番所
在のかねだの里敷地 (5,648.00平方メートル)
- (25) 栃木県那須塩原市二区町 352 番 160、352 番 161、352 番 162、352 番 18 所在のピア
レスV敷地 (1,146.02平方メートル)
- (26) 栃木県那須塩原市二区町 352 番地 160 所在の木造瓦葺平家建ピアレスV園舎
(104.34平方メートル)
- (27) 栃木県塩谷郡塩谷町大字大宮字寺ノ前 2947 番地所在の木造スレートぶき平家建お
みや保育園園舎 (673.98平方メートル)
- (28) 栃木県塩谷郡塩谷町大字玉生字五斗蒔 400 番地所在の木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建
こすもす及びコスモス園舎 (335.93平方メートル)
- (29) 栃木県大田原市市野沢字練ノ裏 1843 番地 1、1842 番地 1、1844 番地所在の鉄骨造合
金メッキ鋼板ぶき平家建かねだの里園舎 (940.85平方メートル)
- (30) 栃木県大田原市浅香一丁目 3542 番 145、3542 番 169、3542 番 215、3542 番 219 所
在の法人研修棟敷地 (1,940.29平方メートル)
- (31) 栃木県大田原市浅香一丁目 3542 番地 215 所在の鉄骨・木造合金メッキ鋼板ぶき 2 階
建法人研修棟 (449.84平方メートル)
- (32) 栃木県那須塩原市二区町 352 番地 18 所在の木造瓦・亜鉛メッキ鋼板葺平家建ピアレ
スVI園舎 (108.81平方メートル)
- (33) 栃木県大田原市城山一丁目 140 番地 26、140 番地 8、140 番地 10、140 番地 22、140
番地 27 所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建四季の風園舎
(1,182.95平方メートル)
- (34) 栃木県宇都宮市若草四丁目 2677 番 1、2677 番 11、2677 番 12、2677 番 47 所在のコ
ミュニティーサポートセンターひかり敷地 (1,120.13平方メートル)
- (35) 栃木県宇都宮市若草四丁目 2677 番地 1、2677 番地 11 所在の鉄骨造合金メッキ鋼板
ぶき 3 階建コミュニティーサポートセンターひかり園舎 (457.81平方メートル)
- (36) 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字土屋 2191 番 19 所在の星の郷敷地
(2,910.00平方メートル)
- (37) 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字土屋 2191 番地 19 所在の鉄筋コンクリート造合金メッ
キ鋼板ぶき 2 階建星の郷園舎 (1,433.13平方メートル)
- (38) 栃木県芳賀郡市貝町大字市塙字北城 4117 番 15 所在のかがやき敷地

(1, 500.01平方メートル)

(39) 栃木県芳賀郡市貝町大字市塙字北城 4117 番地 15 所在の鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建かがやき園舎 (299.79平方メートル)

3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第39条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、栃木県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、栃木県知事の承認は必要としない。

1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行なう施設整備のための資金に対する融資と併せて行なう同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第33条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

(5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供する

とともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
 - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 事業の概要等を記載した書類
- (会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。
(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。
(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認が必要ではない。
(保有する株式に係る議決権の行使)

第38条 この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の3分の2以上の承認を要する。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第39条 この法人は社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 日中一時支援事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第8章 解散

(解散)

第40条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第41条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

(定款の変更)

- 第42条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、栃木県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。
- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を栃木県知事に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

(公告の方法)

- 第43条 この法人の公告は、社会福祉法人同愛会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

- 第44条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	中本光夫
常務理事	福間 士
理 事	三上歳衛
〃	高野一夫
〃	山田正実
監 事	本吉俊夫
〃	加茂 清

参 考 設立及び定款変更認可歴

昭和27年	5月17日	設立認可			
昭和33年	9月16日	定款変更認可			
昭和47年	1月26日	定款変更認可			
平成7年	12月25日	定款変更認可			
平成10年	6月15日	定款変更認可			
平成11年	2月9日	定款変更認可	平成11年	4月	1日より施行
平成12年	1月27日	定款変更認可			
平成12年	5月22日	定款変更認可			
平成13年	2月28日	定款変更認可	平成13年	4月	1日より施行

平成14年	1月24日	定款変更認可
平成15年	3月25日	定款変更認可
平成15年	4月16日	定款変更認可
平成15年	10月30日	定款変更認可
平成16年	6月10日	定款変更認可
平成16年	11月24日	定款変更認可
平成17年	1月6日	定款変更認可
平成17年	5月6日	定款変更認可
平成17年	6月13日	定款変更認可
平成17年	8月12日	定款変更認可
平成18年	3月10日	定款変更認可
平成18年	11月7日	定款変更認可

ただし、第1条(2)及び第27条第1項の規定は平成18年10月1日から施行する。

平成19年	3月20日	定款変更認可
平成20年	5月30日	定款変更認可
平成22年	10月21日	定款変更認可
平成23年	3月15日	定款変更認可
平成23年	6月9日	定款変更認可
平成24年	3月2日	定款変更認可
平成25年	3月6日	定款変更認可
平成25年	8月20日	定款変更認可

ただし、第1条(2)の規定は平成25年9月1日から施行する。

平成26年	7月3日	定款変更認可
平成27年	1月20日	定款変更認可
平成29年	1月20日	定款変更認可 平成29年4月1日より施行
平成29年	9月29日	定款変更認可